

日向堂の歴史

1686(貞享3)旧明石藩主の松平日向守信之公まつだいらひゅうがのかみのぶゆきの訃報が下総・古河しもふさ しが(茨城県)より伝わると明石藩の各所でその遺徳をしのび墓や顕彰碑やお堂が建てられた。ここ浜西(西長池)では日向堂というお堂がたてられ、その後も毎年命日には法要が行われている。名君の日向守信之公の伝わっている善政について、また日向堂の歴史について調べた。

日向堂:本堂



信之公たちの位牌

松平直明公

松平信之公

松平直常公

爲大観講中
先祖累代菩提
家内安全祈

松平日向守信之公は 1631 年(寛永8)生まれ。没年は 1686 年(貞享3)。ちなみに水戸黄門様(1628 年から 1701 年)とほぼ同時代。徳川家康 5 代前の分家。譜代大名で愛知県安城市藤井を領して藤井松平家と呼ばれている。前藩主松平山城守忠国の次男。兄の早世で家督を継いだ。1659 年(万治)から 20 年間明石藩主であった。5,000 石を弟の信重に分与。65,000 石を継いだ。1679 年(延宝7)大和郡山に 80,000 石で転封。1685 年(貞享2)老中になり下総・古河に転封。在職中に 90,000 石に加増になる。老中在職中の 1686 年(貞享3)7 月 22 日江戸で死亡。官位ははじめ従五位下であったが没年時は従四位下であった。同年 6 月 6 日信之が病臥にあると聞いた將軍綱吉は柳沢保明(のちの吉保)を遣わして見舞った。官位の従四位下は家門大名や、譜代大名のうち老中などの重役に登るもの、高家、外様大名の内 10 万石以上の国主がこの位階に叙せられた。

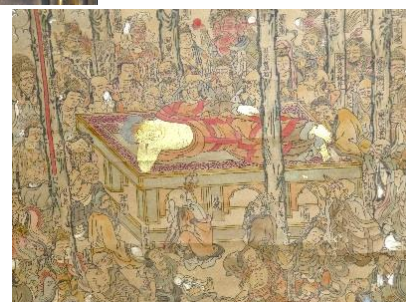
日向堂の名前は彼の官位の日向守にちなんでつけたと思われる。お堂が建てられた年は、記録が残っていないのではっきりしないが、信之の没年の 1686 年(貞享3)からあまり年月が経っていない時期と思われる。遺徳をしのぶ顕彰碑などは各地に建てられているが、お堂はこの浜西村だけだと言われている。

ご本尊は阿弥陀如来。この如来像は江戸中期の作品で、優品である。このほかに堂ではお釈迦様の涅槃図も伝わっている。祀られているのは6代藩主の信之公とのちに越前松平家から入封した8代藩主の松平直明公と9代藩主の直常公の3人の名君である。



本尊:阿弥陀如来像

涅槃図



信之公の伝わっている善政は、①領内の寺社の復興・再建に力を注いだ。具体的には柿本神社の改修。休天神の建築。押部谷の近江寺の再建など。②新田開発をした。西垂水新田(霞ヶ丘及び五色山付近)。

伊川谷の永井・生田・大蔵谷。鳥羽新田。松陰新田。東野新田(大久保町森田)。浜西(西長池)など。③官道整備に力を注いだ。一里塚を設けた。(塩屋・垂水・狩口・和坂・福田・清水)いずれも現存せず。

④水主役の免除。年貢の軽減。加役免除を行った。

遺徳をしのび建てられた慰霊碑。①西垂水新田。信之公の戒名が記されている。明石市史を記した黒田義隆先生の説明板が横にある。



- ②大久保町森田の住吉神社。
- ③神戸市西区漆山。
- ④松陰新田の大林寺(父忠国のもの)

特に鳥羽新田の圓通寺にある高名な儒学者梁田悦巖作の報徳碑には『彼は立派な殿様だった。観世音が現れたようだった。いい田畑まで下さった。長く村民を守ってくださっている』と書いて、その恩に報いている。元岡山藩に仕えていて幕政批判で明石藩預かりになっていた陽明学者の熊沢蕃山は友人への手紙の中で『信之公はよき人であり、土民(そのまま記載)に情け深い』と記している。



明石藩は父の松平忠国とこの信之の30年の名君の治世のおかげで藩の基礎が固まり、その後、経済・文化が大いに発展した。

浜西村では今日に至るまで信之公の命日の7月22日には遺徳をしのびこの日向堂で法要を行っている。